

ヤング・ギター 2024年3月号増刊
2024年1月24日発行・発売
第56巻・第6号・通巻879号

Jazz

in

Vol.
004
March 2024

YEAR BOOK

JAZZ SCENE 2023 - 2024

WAYNE SHORTER, SAMARA JOY,
MIHO HAZAMA, FRED NERSCH AND ESPERANZA,
HIRONUJEHARA, SHUTARO MATSUI,
CHIHIRO YAMANAKA, BANKSIA TRIO ETC.

来日アーティスト・ベスト・ライブ、ジャズ・アルバム・年間セールスチャート
本誌評論家/ライターが選ぶ2023ベスト・アルバム10選

2023 JAZZ ALBUM GUIDE PART 1

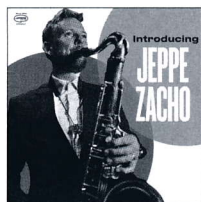
現代ECMを体現する二人のピアニスト ニタイ・ハーシュコビッツ / ビージェイ・アイヤー

Songs / Emil Viklicky – Imogen Ryall



- ① Not Yet ② I Know You Know ③ Gone With Water
④ Aspen Leaf / ⑤ Conjurology ⑥ Dawn Devayne ⑦ Kyczera ⑧ Moon, Sleeping In A Cradle ⑨ Desire
■ Emil Viklický (p) Imogen Ryall (vo) Julian Nicholas (ts,ss) Petr Dvorský (b) Eric Ford (ds)
2023.5.1,2, East Sussex, England
■ OSA AF007 ※LP

Introducing Jeppe Zacho



- ① Self-Express ② Loyal Soldier ③ Rendezvous ④ El Bravado ⑤ Omnivore ⑥ The Sweet One ⑦ Bülow's Way
■ Jeppe Zacho (ts) Jonas Due (tp,fl,h) Thomas Borno (p) Anders Fjeldsted (b) Henrik Holst Hansen (ds) Eiel Lazo (②④:cga) 2022.11.24-25, Copenhagen
■ April Records APR121CD

A Lovable Thing / Geri Allen & Kurt Rosenwinkel



- ① A Flower is a Lovable Thing ② Embraceable You ③ Introductions ④ Simple #2 ⑤ Ruby My Dear ⑥ Introductions ⑦ Open-Handed Reach
■ Geri Allen (p) Kurt Rosenwinkel (g) 2012.9, Paris
■ Motéma Music MTM0430

Face To Face / Nikki Iles, NDR Bigband



- ① Misfits ② Red Ellen ③ Face to Face ④ Wild Oak ⑤ Big Sky ⑥ The Caged Bird ⑦ Hush ⑧ Awakening ■ Nikki Iles (accor,cond,arr)
NDR Bigband : Thorsten Benkenstein, Nic Boysen, Claus Stötter, Percy Pursglove (tp) Dan Gottshall, Erik Konertz, Klaus Heidenreich, Stefan Lottermann (tb) Ingo Lahme (tb) Fiete Felsch, Anna-Lena Schnabel (as) Julius Gawlik, Konstantin Herleinsberger, Frank Delle (ts) Luigi Grasso (bs) Gareth Lockrane (fl,af) Florian Weber (p) Mike Walker (g) Ingmar Heller (b) Ian Thomas (ds) Marcio Doctor (per) 2021.12.6-10, 2022.2.21-22, Hamburg, Germany ■ Edition Records EDN-1231

輸入盤目利さ音聴き

ゴンザロ・ルバルカバ3作目のソロ・ピアノ作品は初のスタンダード曲集

現代のヴァーチュオーソ、ゴンザロ・ルバルカバの3作目のソロ・ピアノ作品にして、初めてのスタンダード曲集。「ソロ・ピアノは、自らと対峙する大きなチャレンジであり、それを乗り越えたところに進化がある」とゴンザロは語る。テクニシャンのゴンザロが、全てをそぎ落とし、シンプルにメロディとピアノの響きを慈しむ。そこに、ゴンザロの真摯なジャズの本質とその人間性が表現されている(Ⓐ)。

父がマレーシア出身の華僑、母がユダヤ系ポーランド人で、カナダに生まれ育ったサクソフ・プレイヤー/作編曲家のアリソン・オウが、自らの出自と移民をテーマに描いた、リズムにヴォイス、ストリングス・カルテット、ヴィブラフォンをフィーチャーした、チャレンジングなラージ・アンサンブル作品である。移民をテーマにした北米の詩人たちの詩が歌われ、オウの音楽に普遍性をもたしている(Ⓑ)。

2000年代初頭から、ニューヨーク、ボストン、オーストラリアを拠

チェコ出身の人気ピアニストと歌手兼作詞家による共同名義作

ビクリツキーが全作曲を、クレア・マーティンに歌詞提供の実績がある英国人歌手ライオルが全作詞を手掛けたオリジナル曲集。自然体かつ、時にテクニカルでもある歌唱は、英国OBE歌手のお墨付きを得た力量を証明。ライオルのレギュラー・サクソ奏者も起用したビクリツキーの企画を探れば、昨年ジョニ・ミッチェル『ミンガス』のカバーを出したほどの挑戦心溢れる実力派を、広く知らしめたいとの思いがあったのだろう。両者の好相性に導かれた意欲作。(杉田) (Ⓐ)

1982年デンマーク生まれのテナー奏者のデビュー作

母国の首都圏を拠点にコンボやビッグバンドでキャリアを重ねてきたイエベ・ザコは、40歳超ゆえにこの初リーダー作は遅咲きの印象だが、共演し慣れたミュージシャンとオリジナル曲で固めたプログラムを制作するためには、このタイミングだったのだと納得。無頼派風のテナーを吹奏する①で開幕し、2管ユニゾンでクインテットの勢いを示す②、キューバへの愛を表明したコンガ入りの④、恩師に捧げた⑦等でモダン・ジャズを継承。北欧正統派の登場を歓迎する。(杉田) (Ⓐ)

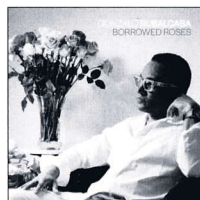
録音から11年後にアルバム化された幻のデュオ・ライブ

ローゼンウィンケルが自身のバンドのNYクラブ公演でアレンと共演し、その数カ月後にバリのコンサート・ホールにデュオで出演。アレンは望んだスタジオ録音が実現しないまま5年後に他界したが、幸いにも保存されていたライブ音源が登場。アレンにとってはそもそもギタリスト参加のリーダー作は少なく、その点でも興味大。結果、スリリングなソロの応酬よりも、相互理解に基づく調和と融合の色彩が濃く、デュオは楽器の組み合わせ以上に一対一なのだ実感。(杉田) (Ⓐ)

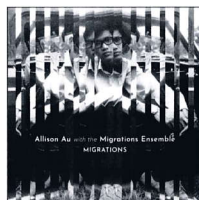
英国のピアノ・レディが60歳の節目に放ったビッグバンド作

トリオ作やティナ・メイとの共演作の印象が強いニッキ・アイルズは、マイク・ギブスやクリエティブ・ジャズ・オーケストラでの経験があり、ドイツの人気楽団との本コラボ作は、自身の作編曲の才能を発表する絶好の場所と言えよう。親近感を抱かせるメロディを提供しながら、ソロ奏者に活躍のスペースを用意する書法が好ましく発揮されており、羽音を模したブラシを皮切りに現代ビッグバンドの醍醐味を注入した⑥に、リーダー＝アイルズの真骨頂を聴く。(杉田) (Ⓒ)

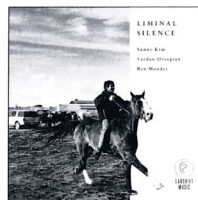
点に活躍するシンガー、サニー・キムは、ベン・モンドー(g)とは2005年から、バーダン・オブセパン(p)とは2018年から共演している。この3人が揃い『Liminal Silence(沈黙の罅)』をテーマに音楽的奇跡を起こした。モンドーのノイジーなギター、オブセパンの透徹したピアノ・タッチ、キムの繊細で時にワイルドなヴォイスが、スピリチュアルで唯一無二の音空間を創造する(Ⓒ)。(常盤武彦)



Ⓐ『Borrowed Roses / Gonzalo Rubalcaba』(Top Stop Music)



Ⓑ『Migrations / Allison Au with the Migrations Ensemble』(AA-23)



Ⓒ『Liminal Silence / Sunny Kim, Vardan Ovspejan, Ben Monder』(Earshift Music EAR076)